

企業のための賢いクラウド活用術(前編)

NTT西日本 [公共・法人HOME](#) [最速経営のヒント](#) [著名人が語る](#) 企業のための賢いクラウド活用術(前編)



大企業と同様のIT環境を 賢く・安く・借りて使う 2012年3月

戸村 智恵 / 日本クラウドユーザー協会 会長、日本マネジメント総合研究所 理事長、公認不正検査士 (CFE)

クラウドコンピューティングの健全な普及をめざして、ユーザー視点に立った中立的な啓発団体「日本クラウドユーザー協会」を設立し、会長として積極的な発言を続ける戸村智恵氏。従来は「資金力の豊富な大企業だけのもの」と思われがちだった高度なIT環境を低コストで導入でき、BCP(事業継続計画)にも有用なクラウドの賢い活用術を、ユーザー企業の視点からやさしく解説する。

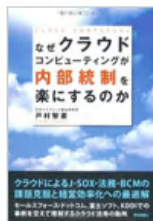
プロフィール

1975年大阪府生まれ。早稲田大学卒業。米国にて経営管理学修士号(MBA)修了。国連に勤務し、内部監査業務の専門官、戦略立案専門官リーダーなどを担当。民間企業役員として監査統括・人事総務統括などに携わるほか、経営行動科学学会理事、岡山大学大学院非常勤講師、IT企業の株式会社アシスト(社長:ビル・トッテン氏)顧問などを歴任。NHK「クローズアップ現代」出演・番組監修、テレビ朝日「そうだったのか!池上彰の学べるニュース」番組監修など担当。東日本大震災の1年前(2010年3月10日)出版の『なぜクラウドコンピューティングが内部統制を楽にするのか』で、日本初の危機管理型クラウドを提唱。

主な著書



「監査 MBA 講座 監査マネジメント技法—危機管理・リスク管理と監査」(中央経済社)



「なぜクラウドコンピューティングが内部統制を楽にするのか」(技術評論社)



「しっかり取り組む『内部統制』—企業健全化プログラムと実践ノウハウ」(実務教育出版)

はじめに

東日本大震災および各地の風水害等で被災された方々のご安全と一日も早い実りある復旧復興とともに、ご無念ながらに天上に召されました尊い御霊へのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

大阪出身で阪神・淡路大震災を経験した者として、また、現在は東京に拠点を置き、上場企業から中小企業・医療福祉機関など各地で指導に奔走する身として、大切な命の教訓を風化させることなく、人と人、心と心の絆を大切に生きていければと思う次第です。

企業経営においては、同じく、人と人、心と心、そして、情報と情報をつなぐものがインターネットや各種ネットワークだったりするわけです。

今回のお話では、中堅・中小企業でも上場最大手企業と同様のIT環境を用いて、IT経営を安くスムーズに高度化しやすいと昨今話題のクラウドコンピューティングの活用のある方を、ほんわかと見つめてみましょう。

Bizひかりクラウド

情報システム基盤の構築から、もしもの事態に備えるBCP対策まで。増え続けるストレージへの対応など、クラウドサービスがあなたのビジネスをサポートします。

データセンター

データセンターは、西日本エリア30府県に防災性に優れた堅牢なビル環境に加え、生体認証などの入室管理、情報セキュリティ対策や保守運用体制など安心してご利用いただける環境を提供します

[会社を変える](#)

[会社を育てる](#)

[思考の極意](#)

[人を動かす極意](#)

[心をつかむ極意](#)

[人づくりの極意](#)

[結束を固める](#)

[リーダーを育てる](#)

[想像力を磨く](#)

[やる気を引き出す](#)

[人を惹き付ける](#)

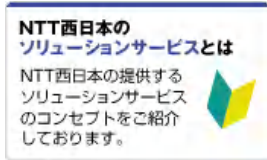
[組織力を高める](#)

[営業力を鍛える](#)

[人を育てる](#)

[カテゴリートップへ](#)

↑ PAGETOP



クラウドって結局なんなの？

テレビのCMやマスコミの記事でも、クラウドという言葉は踊っているものの、各地で指導させていただく中で、中堅・中小企業の経営陣の方は意外と無頓着だったり、言葉遊びに興じていたりするような感じがします。

業界団体や企業ごとに、クラウドについてのさまざまな定義がありますが、例えばITのビジネスモデルの総称としてクラウドと呼んでいた、あるいはITの利用形態の一つとしてクラウドと称していたりします。総務省から委託されてクラウドの信頼性・安全性などの情報公開を行うNPO法人ASP・SaaS・クラウドコンソーシアムでは、クラウド黎明期に下記のような定義を行っていました。

クラウドコンピューティングとは、ASPやSaaSやユーティリティー・コンピューティングなど、データセンターのハードウェア・ソフトウェアの集合体のこと

というようなことを読んでみても、余計に分からなくなりそうです。ということで、ほんわかとクラウドを大まかに言い換えてみますと、下記のような感じですが、クラウドの定義は定義として、要するに…

- 自社でサーバーやお金の掛かるIT機器・IT資産を持たず、
- ネットの向こう側にあるIT資産やサービスを「賢く安く借りて使って」、
- 拡張性も縮小性(使わなくなればやめればいい)も備えたITのこと

という感じになります。クラウドは、ものによっては、初期費用0円で使った分だけ、使用する人(ID)の分だけ、お金を支払い、バージョンアップ(Office2007から2010へのバージョンアップやサーバーの更新など)の維持管理も、ユーザー企業のアナタではなくサービス提供社側が対応してくれるものでもあります。

↑ PAGETOP

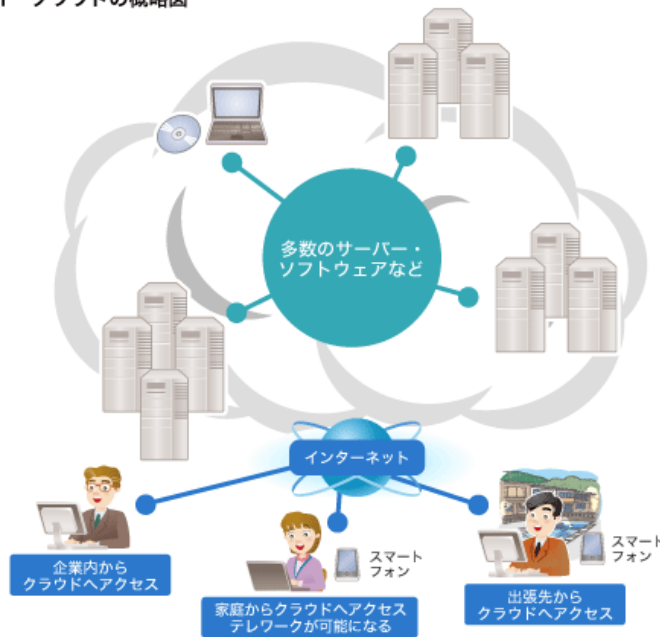
「場所に縛られないIT環境」で危機に強く、おサイフにもやさしいクラウド

読者の皆様は「高度なITは、お金も、高度なIT要員も豊富な大企業だけのもの」というイメージをお持ちかもしれません。

しかし、クラウドは「大企業が使うのと同様のIT環境・ITサービスを、使う人の分だけ、使う分量だけお金を支払い、面倒なメンテナンスなどは全てクラウド提供社側で代行してくれる」というものです。大企業と同様のIT環境を「賢く安く借りて使える」仕組みだといえます。中堅・中小企業のクラウド先行組の方々は、十分にそのウマミを知って、クラウドのメリットを享受しているわけです。

クラウドの概略図を、同じく拙著から引用してみると、下図のような感じになります。

■図1 クラウドの概略図



クラウドが危機管理にも強いことを東日本大震災前から述べておりましたが、要するに、クラウドは「**場所に縛られないIT環境**」であり、災害にも経営効率化にも強い側面があるのです。

これまでのITは社内に全て買って備えて使っていた(専門的には「オンプレミス対応」と言ったりします)ため、職場に行かなければITを用いた作業ができなかったのが実態でした。

しかし、クラウドを活用していくならば、営業先から営業日報を作成したり、会社のメールアドレスでスマートフォンからメールを打てたりします。つまり、男女共に家庭からでも、ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)対策として、子育てや介護などをしながら、ITを用いた仕事ができるようになるわけです。

また、おサイフにもやさしいクラウドであることは、ちょっと見積もりなんかを取ってみるとすぐに分かることだったりします。

例えば、筆者の指導先の中堅企業で、ログ管理(ログの取得だけでなく、不正なIT操作がなかったか、あれば是正できるようにするログの監視なども含む)システムを導入しようと、これまでどおりのITを買おうとされた際の見積もり例がございましたので、下記にざっとご紹介までに。

- 「ログ管理システム」導入検討時の見積もり例
 - サーバー代+ログ収集ツール代+ログ管理ツール代
- ③従来どおりのシステム = 初期費用**1,200万円**~
+メンテナンス費用
- ⑥クラウドを用いたシステム 上記一式そろえて、初期費用**約75万円**
+サービス利用料
- ③と⑥の初期費用の差額 1,200万円-約75万円=**約1,125万円**
※クラウドのランニング費用は比較対象外。

結局、この中堅企業の方はクラウドで大幅に初期費用を削減しつつ、IT戦略の一環として、不正対策ツールで初期費用が浮いた分、営業管理や顧客管理システムを同じく安く使いやすいクラウドで導入して、攻めと守りを今までのITシステム一つ分で充実させる方法を選択しました。

↑ PAGETOP

オンプレミス安全神話の崩壊 ハッカー対策からもクラウド化が急務

また、危機管理上は、これまでは情報漏洩リスクにおびえ過ぎていらした経営陣の方々は、こんなことをよくおっしゃっていました。

「クラウドって、アレだろ、データとか何とかがインターネットの向こう側にあるやつだろ。大体、インターネットを使ったものは危ないんだ。だから、わが社は賢く安全策に徹するから、クラウドはいらない！」

しかし、東日本大震災にてIT環境が全滅するリスクを肌で感じられた多くの企業は、本社や事業拠点そのものが地震で倒壊したり、津波で町ごと流されたりするという苦い経験から、既に「オンプレミス安全神話」が崩壊した（つまり、自社内にIT資産を全て囲い込む方が安全だという考えが覆された）ということを理解されています。

結局、ITリスクを考える際も、リスク管理の基本的な考え方として、どちらのリスクが重いか、という観点が重要です。

既に大手企業がハッカー対策や情報漏洩対策として、クラウド化を加速させ、クラウド提供社の高度なITセキュリティを要員が管理するIT環境を築こうと躍起になっています。つまり、クラウドは、もはや、情報漏洩や不正アクセスのリスクを理由に敬遠されるべきものではありません。

安全を求めるなら、災害で自社ビルや工場自体が全壊した場合のリスクを避ける意味でも、大切なデータはネットの向こう側のクラウド内に置いておく。このようなリスク管理対策としてもクラウドが注目されています。

ただ、安さだけを求めてクラウド化を急ぐとリスクもあります。自治体クラウドで問題のあった例は、セキュリティ対策を怠った契約でクラウドを活用したものでした。安心して任せられる、実績も能力もあるクラウド提供社を選ぶべきです。

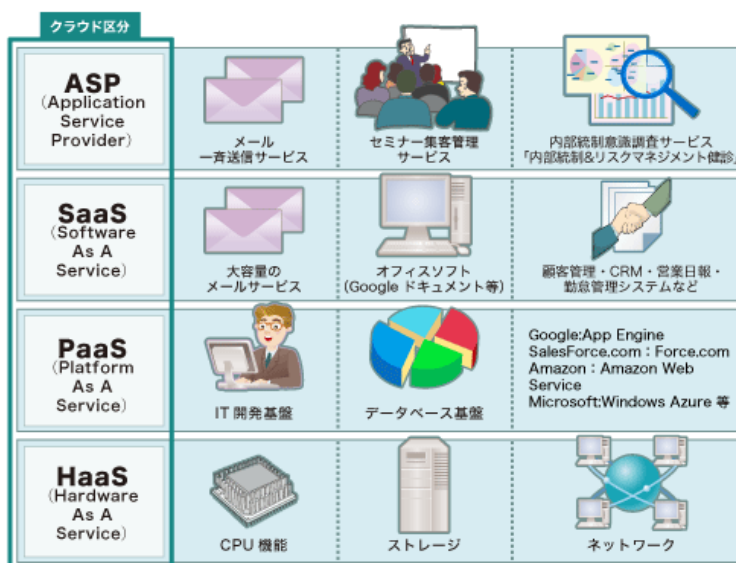
↑ PAGETOP

4タイプあるクラウドの整理

ちなみに、一言でクラウドと言っても、現在クラウドと呼ばれてサービス展開されているものには、大まかに四つのタイプがあります。下図にその四つのタイプをまとめておきました。

中堅・中小企業で、自前のシステムをゼロから構築しないようであれば、クラウドと言った場合にほとんどがASPかSaaSを意味していると言ってよいでしょう。専門知識は不要で、どの企業も手軽にさっと導入できるのがこの2タイプです。

■図2 クラウドの4タイプ



大まかに言えば、図のSaaSより上の部分が、各企業でITの専門知識がなくても明日からすぐに導入できるお手軽なクラウドで、PaaSより下の部分が、IT部門などをお持ちで自前のシステム構築やIT環境づくり

(HaaSによるIT資産を借りたIT環境の増強など)をされるちょっと高度なクラウド活用部分だったりするわけですね。

ここまでクラウドのメリットを中心に触れてきたので、読者の皆様の中には、「うぬっ、こいつはクラウド提供社の回し者ではないか?」と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

筆者は肩書きどおり、クラウドユーザーの立場からクラウドを見つめ、クラウドのあり方を考えていく立場にあります。そこで、後編では、本当にクラウドはメリットばかりなのかどうか、世の中のクラウド化の流れとどう向き合えば良いかを見つめ、読者の皆様にクラウドにするかどうかなどの選択肢をお示できればと思います。

↑ PAGETOP

後編の見どころ

- 「クラウドに突っ走ったら この結果…」
- The Dark Side of Cloud～クラウドの暗黒面～
- 結局どっちが得なの? : 「クラウド損益分岐点」を考える
- オンプレミスとクラウドにおけるバックアップの比較
- 既存のIT活用における隠れたコスト例
- 何をクラウド化したらいいか? 何を今までどおりにした方が良いか?

など盛りだくさんです。後編もお楽しみに!

[企業のための賢いクラウド活用術\(後編\)](#)

↑ PAGETOP

関連サービス



Bizひかりクラウド

「Bizひかりクラウド」は、NTT西日本のグループ各社と連携して提供するクラウドサービスです。

↑ PAGETOP

本ホームページに掲載されている会社名、商品名は一般にメーカー各社の登録商標または商標です。
本ホームページの無断転載、引用はお断りいたします。
Copyright(c)NTT西日本 ビジネス営業本部 企画部

↑ PAGETOP

審査 16-2826-1

[サイトマップ](#) | [アクセスマップ](#) | [登録商標について](#) | [情報セキュリティ基本方針](#) | [このサイトについて](#) | [プライバシーポリシー](#) | [NTT西日本トップ](#)
[法人向けサービス](#) | [中堅・中小企業のお客さま](#) | [お店・小規模オフィスのお客さま](#)

Copyright(C) 1999-2017 西日本電信電話株式会社